

平成 26 年度 事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

I 全体事業概要

コメ改革をはじめとする新たな農業・農村政策がスタートし、昨年は生産現場にとって不安だらけの 1 年であった。そうした中、日照不足によるコメの収穫減に追い打ちをかけるような米価の大幅下落、そして米の直接支払交付金の半額減少と重なり、水田担い手農家からは営農継続に不安を抱く声が数多く寄せられた一年であった。

農政改革の大きな目玉として発足した農地中間管理機構制度は、愛知県下では現行の利用集積円滑化事業の定着と新制度への移行メリット問題、公社が受託する場合の公益財団法人の再認定承認等、制度参加は次年度以降に取り組むこととした。

公益事業の柱である農地利用集積円滑化事業は、「人・農地プラン」の未整備や変更を進める集落説明会にも積極的に参加し、分散圃場の集約化、農地の有効利用や農業経営の効率化に向け、貸借希望者の募集等、関係機関と連携して取り組みを実施した。

担い手確保育成総合支援計画に基づく農家育成については、1 期生・2 期生の 4 名に続き 3 期生 4 名を受入れ、委託農家での実習や公社研修等を修了し、就農用地や施設確保も整い、新規認定農業者として輩出することができた。また、2 年目を迎えた農業塾生は、当年度も 10 名が小規模ながらも土地利用型の蔬菜生産の実習に励んでおり、学習によって得られた成果物の販売体験を行うなど、修了後の産直出荷農家としての自立を期待している。

種苗等生産事業では、菌床ブロック供給先として新たに 3 戸の生産農家が加わることとなり、既存農家の増床分と併せると創業時の目標数値 150,000 菌床に迫った。今後も優良安定した種菌ブロック供給に努め、管内の魅力ある特産物として生産量拡大に貢献して行く。

収益事業においては、種苗供給事業供給品目の臨床栽培の目的を併せもっているが自然薯生産においては日照不足による病害発生等もあり、全体的に肥大化が進まず秀品率が低下した。菌床シイタケについては、夏菌床栽培は前年を上回る収量を確保したものの、冬菌床栽培において厳寒期の施設設備に課題もあり、年間全体では前年並みの収穫量となった。

公社事業全体では、公益事業合計で収支均衡、収益事業合計で経常収支も黒字化となり、法人会計を含めると -775,369 円の当期経常増減額となった。公益財団法人として、今後も公益目的事業を通じて地域農業の振興に取り組む。

II 事業内容

1. 農地利用集積円滑化事業

(1) 関係機関と連携しながら農地保全に向けて利用権設定に努めた。

単位：㎡

| 内 訳 | 地目 | 26年度保有面積 | 25年度保有面積 |
|------|-----|-----------|-----------|
| 賃貸借 | 田 | 1,789,084 | 1,652,970 |
| | 畑 | 61,706 | 44,414 |
| | その他 | 21,904 | 21,904 |
| | 小計 | 1,872,694 | 1,719,288 |
| 使用貸借 | 田 | 507,940 | 446,109 |
| | 畑 | 22,945 | 17,093 |
| | その他 | 0 | 1,223 |
| | 小計 | 530,885 | 464,425 |
| 合 計 | | 2,403,579 | 2,183,713 |

(2) 所有者代理事業により、4件の売買斡旋契約を行った。

- ① 作手高里 (3筆) 水田 5,751㎡ 4,342,000円 (755千円/10a)
- ② 作手清岳 (2筆) 水田 1,033㎡ 826,400円 (800千円/10a)
- ③ 作手中河内 (2筆) 水田 4,238㎡ 3,390,000円 (800千円/10a)
- ④ 新城上平井 (1筆) 水田 2,750㎡ 1,650,000円 (600千円/10a)

2. 地域農業者の支援に関する事業

(1) 農作業受委託事業

農作業の出来ない農家の作業を受託し、受託営農部会や公社自らが農作業を実施し、春作業から秋の刈り取り作業、WCS 稲の刈り取りやロール運搬、冬の堆肥散布など多様な農作業を行った。

| 作業受託内容 | H26年度実績 | H25年度実績 | 公社 | 委託 |
|--------|---------|---------|----|----|
| 耕起 | 4.3ha | 6.8ha | ○ | ○ |
| 代掻き | 2.8ha | 3.0ha | ○ | ○ |
| 田植え | 7.1ha | 7.1ha | ○ | ○ |
| 育苗 | 1,500枚 | 1,540枚 | | ○ |
| 畝立て | 0.6ha | 0.9ha | ○ | |
| 刈り取り | 13.0ha | 13.2ha | ○ | ○ |
| 採種刈り取り | 16.6ha | 21.3ha | ○ | ○ |
| 乾燥調整 | 1,644俵 | 1,717俵 | | ○ |
| 堆肥散布 | 13.9ha | 12.6ha | ○ | |
| コントラ作業 | 10.0ha | 10.0ha | ○ | ○ |

(2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

① 青年就農研修生

青年就農給付金対象者の指定研修登録機関として、平成 26 年度 3 期生 4 名（ホウレンソウ栽培志望 1 名、トマト栽培志望 3 名）を受入れ研修を実施した。管内での新たな特産主品目ホウレンソウの周年栽培農家としての参入や、トマト農家に新たな新風を吹き込む技術導入を見据えた栽培実習、農業機械実習等を履修した。

就農圃場の用地確保に苦勞したが、「攻めの農業実践緊急対策事業」による暗渠排水対策や、「経営体育成支援事業（条件不利地型）」に基づくリースハウス工事等の補助事業採択も整い、研修生 4 名全員の生産基盤が確保できたことから、新規認定就農者として送り出すことができた。また、新たな就農者対策では、関係機関との連携による就農林相談会を定期開催し、それぞれの志望作目の農家訪問や現地説明会を随時開催したところ、4 期生として 2 名の研修生受入れを決定した。

② 農業塾

平成 25 年 8 月開講にて第 1 期生 10 名の塾生を受入れ、黒田地内の実習圃場にそれぞれの栽培区画を割り当て、農作物の基本的な栽培方法や農業機械の操作実習、収穫や出荷販売実習等 1 年間かけて行った。平成 26 年 8 月に全カリキュラムを修了し、卒業塾生には耕作放棄地や不作付地等の解消に貢献いただき、市内産直施設への出荷販売を要請した。平成 26 年度 8 月には第 2 期生 10 名を新たに受け入れ、農業技術や知識のない方に農業経営への関心や意欲向上を図るため農業塾を開催している。

3. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

自然薯むかご、1 本芋、菌床ブロックを供給先の要求に応えるべく優良種苗の生産に向けて努力した。菌床ブロック製造施設においては、増産供給に応えるため培養室の運搬兼培養棚 40 台を補充した。

| 品目 | 26 年度実績 | 25 年度実績 |
|---------------------|------------|------------|
| 愛知県園芸振興基金協会受託むかご栽培 | 129,600 粒 | 149,900 粒 |
| 自然薯の一本種芋生産 30g～100g | 5,590 本 | 5,570 本 |
| 菌床シイタケブロック製造 | 146,830 菌床 | 129,579 菌床 |

4. 都市農村交流促進事業

(1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休み体験として、「道の駅手作り村」と連携し延べ 300 余名の体験を行った。2 度の台風襲来により、倒伏や水没で体験収穫量が減少したことが残念であった。

(2) 稲作体験（生協・経済連・手づくり村）

年 4 回のイベント実施し、延べ 400 名が体験を行った。

(3) つくで祭り

研修生が公社実習で栽培収穫したサツマ芋を活用し、消費者交流体験を兼ねて加工調理販売した。

(4) 「道の駅つくで手作り村」感謝祭

公社栽培の自然薯、菌床椎茸を販売 PR を実施した。

(5) JAまつり

JAまつりの人気コーナー『シイタケ詰放題』が定着し、地元産農林産物の普及拡大と農林業公社しんしろの菌床椎茸の PR を実施した。

(6) 作手小学校農業指導

「ふるさと先生」派遣講師依頼に基づき、小学生への稲作体験指導、自然薯栽培指導を行った。

5. その他農業振興事業

(1) 菌床栽培農家に対する栽培施設の貸付

全 8 棟 面積 2,520 m² (8 年予定の 5 年目更新契約を実施)

貸与中の空調装置の設置場所に問題があり、長期的に安定稼働させるため、メーカー、JA、公社が共同で屋外設置工事を負担した。

(2) 公社保有機械貸付

- ① コントラクター組合へのトラクター（ラッピングマシンの牽引動力用）貸出しが常態化しており、要望により平成 26 年度末を以て譲渡した。

6. 農林産物生産事業

(1) しいたけ栽培事業

37,000 菌床の栽培実証を実施した。

収穫量約 26,700kg (前年 26,500kg)

(2) 自然薯栽培事業

収穫量 270kg (前年 270kg)